

明石工業高等専門学校		開講年度	令和03年度(2021年度)	授業科目	工学基礎(留学生科目)
科目基礎情報					
科目番号	0022		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電気情報工学科		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	担当教員がプリントを作成し配布する。(参考教材) 札幌寛子ほか著『科学技術基礎日本語 留学生・技術研修生のための使える日本語』(凡人社)、友松悦子著『小論文への12のステップ』(スリーエーネットワーク)				
担当教員	久保田 育美				
到達目標					
1. 理数系・工学系分野の講義や実験活動に参加する上で必要となる語彙・表現を理解し、いろいろな現象について簡単に説明できる。 2. 関心のあるテーマについて調査・分析し、簡単な日本語で論理的な文章が書ける。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	理数系・工学系分野の語彙・表現を適切に使って、いろいろな現象について説明できる。		授業で扱う内容の範囲であれば、理数系・工学系分野の語彙・表現を適切に使って、ある現象について説明できる。		理数系・工学系分野の語彙・表現を適切に使えず、いろいろな現象についてほとんど説明できない。
評価項目2	自分で立てた計画に沿って調査・分析し、調査に関する一連の内容について、明瞭で一貫した内容の文章が書ける。		自分で立てた計画に沿って調査し、調査に関する一連の内容について文章が書ける。		自分で立てた計画に沿って調査したり、文章を書いたりすることができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	本校の理数系科目および専門科目の授業に参加する上で必要な基礎知識や語彙、表現を習得し、実際に使えるようになることを目標とする。また、自分が調べたり分析したりしたことを簡単な日本語でまとめることができるようになることを目指す。				
授業の進め方・方法	受講生は語彙・表現の習得と並行して、ミニレポート作成に向けた計画書作成と調査を各自で行う。すなわち、本授業を、受講者の日本語能力向上だけでなく、計画的に課題を遂行し、日本語でまとまりのある文章を書く練習の場として位置付ける。				
注意点	受講者は授業に参加するだけでなく、各自で立てた計画に沿って調査およびレポート作成を進めることが求められる。合格の対象としない欠席条件(割合) 1/4以上の欠課				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション 調査の計画	授業の目標および内容を把握する。調べたいことをテーマにし、調査の計画を立てることができる。	
		2週	図形や単位、位置を表す表現	図形や単位、位置に関する表現を見て理解できる。また表現を使って説明できる。	
		3週	物質に関する表現 計画書の作成	物質に関する表現が理解できる。また、表現を使って身の回りの物について説明できる。調査の計画書を日本語で簡単にまとめることができる。	
		4週	性質・状態を表す表現	性質・状態を表す表現が理解できる。また、表現を使って身の回りの物について説明できる。	
		5週	手を動かす基本動作	手を動かす基本動作を表す動詞が理解でき、動詞を使っているいろいろな動作について説明できる。	
		6週	ものを動かす基本動作 計画書の修正	ものを動かす基本動作を表す動詞が理解でき、動詞を使っているいろいろな動作について説明できる。教師の助言を参考に、計画書を自分で修正することができる。	
		7週	ものの形を変える基本動作	ものの形を変える基本動作を表す動詞が理解でき、動詞を使っているいろいろな動作について説明できる。	
		8週	振り返り	授業を通して新たに発見したこと、考えが変わったこと、さらには自分の日本語の能力と技能がどうなったかについて説明できる。	
	4thQ	9週	日本語の文体	レポートや論文で使われる文体を理解し、文章作成の際に文体を統一して文が書ける。	
		10週	日本語の話し言葉と書き言葉の違い 客観的な表現	日本語の話し言葉と書き言葉の使い分けが理解できる。また、レポートに相応しい表現が理解でき、文章作成の際に使うことができる。	
		11週	レポートの構成	レポートの構成について理解できる。	
		12週	ミニレポート作成	計画書に基づいた調査を行い、適切な構成で調査について日本語でまとめることができる。	
		13週	ミニレポート作成	計画書に基づいた調査を行い、適切な構成で調査について日本語でまとめることができる。	
		14週	ミニレポート作成	計画書に基づいた調査を行い、適切な構成で調査について日本語でまとめることができる。	
		15週	ミニレポート作成	教師の助言を参考に、レポート内容、構成および日本語を自分で修正することができる。	

		16週	振り返り	授業を通して新たに発見したこと、考えが変わったこと、さらには自分の日本語の能力と技能がどうなったかについて説明できる。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	成果物	課題提出	授業態度	合計		
総合評価割合	70	20	10	100		
基礎的能力	35	20	0	55		
専門的能力	0	0	0	0		
分野横断的能力	35	0	10	45		